

# 2020年 3月期 第2四半期

# 決算説明会

2019年11月8日

#### 【表紙】

日頃は皆様から、多大なご支援を賜り、 厚く御礼申し上げます。

決算の説明に先立ちまして、 この秋、相次いで発生しました台風や豪雨などの自然災害で 被災された方々へ、 心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧・復興を、お祈り申し上げます。

# 本日の内容

- 1 連結業績結果(2020年3月期第2四半期)
- 2 連結業績予想(2020年3月期通期)
- 3 事業別取組
- 4 持続的成長に向けた取組
- 5 次期中期経営計画について



雪印メグミルク Copyright @ Megmilk Snow Brand Co, Ltd. All Rights Reserved.

【目次】

				an and a second	
売上高	3,053	3,116	+62	102.0	100.2
営業利益	95	106	+10	110.9	104.3
経常利益	102	117	+14	114.4	107.6
純利益※	64	77	+12	120.0	115.0

#### 【連結業績(上期)】

上期の連結業績結果については、 増収増益となりました。

当初予想比でも、 売上高100.2%、営業利益104.3%となり、 概ね当初予想通りの着地となりました。

# 2020年3月期 取組進捗

#### 環境変化への対応

● 市乳商品の価格改定の実施

#### 事業ポートフォリオの変革

- 重点カテゴリーへの取組み強化による販売拡大
- 海外事業の拡大
- ニュートリション事業の拡大 等



室申メグミルク Copyright @ Megmilk Snow Brand Co, Ltd. All Rights Reserved.

#### 【2020年3月期 重点取組み】

5月にお伝えした、今期の重点取組みの 「環境変化への対応」、「事業ポートフォリオの変革」の 各取り組みにおいては、順調に進捗しています。

車結業績予	恕 ~202	0年3月期通期	<b>∦</b> 1∼	(億円、%)
■経営成績 ■	2019年3月期	2020年3月期	増 減 額	前期比
売上高	6,033	6,150	+116	101.9
営業利益	172	180	+7	104.5
経常利益	190	195	+4	102.6
純利益※	107	120	+12	111.6
※親会社株主に帰属	属する当期純利益			
●配 当 ■ 普通配当	40円	連結配当性向	22.6%	

【2020年3月期連結業績予想(通期)】

2020年3月期、連結業績予想については、 当初の予想に変更はございません。

営業利益180億円の達成に向け、 グループ全体で取り組んでまいります。



【4つの事業分野】



#### 【乳製品事業分野(業績)】

乳製品事業分野を中心とする乳製品セグメントは、 増収となりましたが、 プロセスチーズでの競争激化などにより わずかに減益となりました。

バターは引き続き、安定供給に努めました。

油脂は、健康に配慮した商品のプロモーション展開により需要喚起に取り組みました。



【乳製品事業分野(2019上期 チーズ)】

重点カテゴリーの1つである、チーズについては、 国内のチーズ市場は、消費量が4年連続で過去最高を更新するなど 順調に推移しています。

当社については、価格改定を実施した前期に続き、上期についても、ほぼ前年並みとなりました。

今後は、通期の計画達成に向けて、取り組みを強化してまいります。



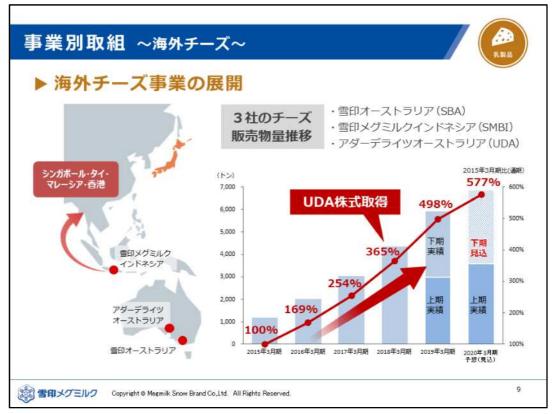
【乳製品事業分野(2019上期 チーズ)】

下期では、好調なナチュラルチーズは、 引き続き、積極的に販売を拡大していきます。

プロセスチーズについては、 この秋、新たにスモーク味の「6 Pチーズ」、「スライスチーズ」を 発売し、販売強化を図ります。

また、「6 Pチーズ」では、新しいテレビコマーシャルにより、 食シーンを訴求していきます。

今後も、当社の強みを生かした商品による 販売活動を展開してまいります。



【中期経営計画 チーズのボーダレス】

海外のチーズ事業についてです。

当社グループでは、海外の3拠点で チーズを製造・販売しています。

事業規模の拡大に伴い、従来の雪印オーストラリアに加え、 今期から、雪印メグミルクインドネシア、 アダーデライツオーストラリアの2法人を連結化しました。

海外チーズ事業の販売物量は、 現地の嗜好に合った商品の販売により 順調に拡大しています。

引き続き、当社グループの成長の柱となるよう、 取り組んでまいります。



【市乳事業分野(業績)】

市乳事業分野についてです。

市乳事業に該当する飲料・デザート類セグメントは、増収となりました。

営業利益でも、価格改定や、費用の抑制などにより、増益となりました。

ヨーグルトについては、「ガセリ菌 S P 株ヨーグルト商品群」の 販売強化につとめました。

デザートでは、主力商品の強化により シェアNO.1を継続しました。



【市乳事業分野 (2019年上期 価格改定)】

4月に実施しました市乳商品の価格改定についてです。

価格改定は、当期における最重要課題として位置づけ、 取り組んでまいりました。

その結果、当社の店頭価格については、 4月から前年を上回り、概ね順調に推移しています。



【市乳事業分野 (2019年上期 ヨーグルト)】

チーズとともに重点カテゴリーとする ヨーグルトについてです。

国内のヨーグルト市場については、 2018年3月期以降、横ばい傾向となっていますが、 当社においては、ご覧の赤い折れ線で示している通り、 堅調に伸び続けています。



【市乳事業分野 (2019年上期 ヨーグルト)】

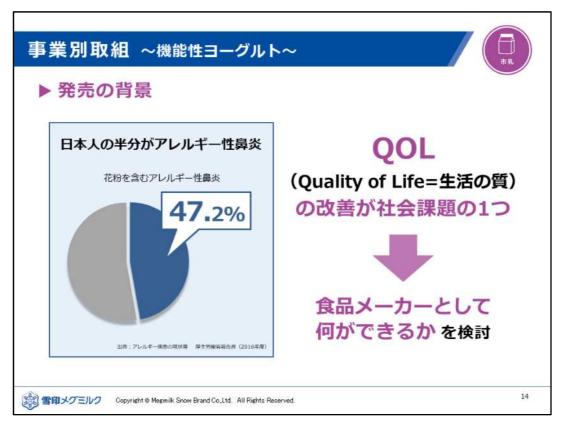
機能性ヨーグルトについては、

「ガセリ菌SP株ヨーグルト商品群」の店頭活動の強化などにより、引き続き、販売拡大を図ります。

加えて、来年1月に、

「目や鼻の不快感を緩和する」機能性食品である 新商品「乳酸菌ヘルベヨーグルト」を発売いたします。

「ガセリ菌SP株ヨーグルト商品群」と合わせ、 機能性ヨーグルトの活性化により、利益の柱に成長させていきます。



【乳酸菌ヘルベ】

発売の背景についてです。

現在、日本人の約半分が、アレルギー性鼻炎と言われています。

このような症状により低下した生活の質、QOLの改善が現代の社会課題の1つになっています。

この社会課題の改善に取り組み、 食品メーカーとして何ができるかを検討してまいりました。

# 事業別取組 ~機能性ヨーグルト~ ● 『目や鼻の不快感を緩和する」機能を有する機能性表示食品のドリンクヨーグルト ● 『日や鼻の不快感を緩和する」機能を有する機能性表示食品のドリンクヨーグルト ● ヨーグルト市場初※ 目・鼻(めはな)対策のヨーグルト ※ 『日や鼻の不快感を緩和する』機能で、機能性表示食品の帰出が完了 ● QOL(Quality of Life = 生活の質)の改善に貢献し、新たな市場を創造 【届出表示】本品には L. helveticus SBT2171 (乳酸菌ヘルベ)が含まれるので、目や鼻の不快感を緩和します。 【機能性関与成分】 L. helveticus SBT2171 (乳酸菌ヘルベ)が

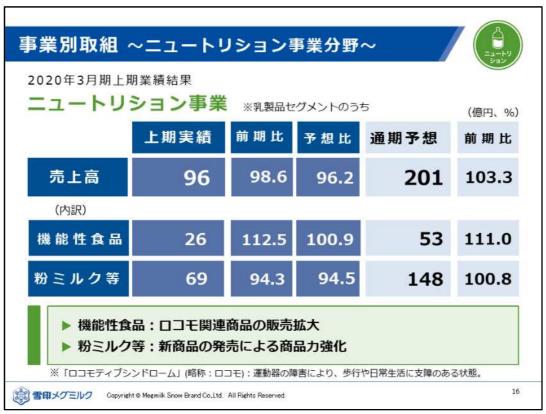
本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。また、特定保健用食品とは異なります。食生活は、主食、主菜、割菜を基本に、食事のバランスを。

#### 【乳酸菌ヘルベ】

今回発売する、「乳酸菌ヘルベヨーグルト」は、 ヨーグルト市場で初めて 「目や鼻の不快感を緩和する」機能を持つ 機能性表示食品のドリンクヨーグルトです。

震動 雪印メグミルク Copyright @ Megmilk Snow Brand Co.Ltd. All Rights Reserved.

食品として、QOLの改善に貢献し 新たな市場を創造してまいります。



【ニュートリション事業分野(業績)】

ニュートリション事業分野についてです。

乳製品セグメントのうち、 ニュートリション事業分野全体の売上高は、 減収となりました。

しかし、機能性食品では、「毎日骨ケアMBP」を中心に 口コモ関連商品の販売拡大に努め、増収となっています。



【ニュートリション事業分野(2019年取組)】

機能性食品については、 シニア向けの「ロコモ」市場が拡大している中、 当社は、「毎日骨ケアMBP」をはじめとした、 商品ラインナップで引き続き販売を拡大していきます。

11月には、成長期の若年層をターゲットとして、 機能性たんぱく質MBPを配合した、 粉末飲料の新商品 「グーンアップ」を発売します。

また、昨年子会社化した通販会社の ベルネージュダイレクトとの連携を強化し、 機能性食品のさらなる販売拡大を目指します。



【飼料・種苗事業分野(業績)】

飼料・種苗事業分野についてです。

上期の売上高は、前年並みとなりましたが、 営業利益は、種苗事業の販売減などにより わずかに減益となりました。

種苗事業では、商品開発と効率化に取り組み、 飼料事業では、総合提案型の営業を継続的に進めました。



【飼料種苗 (上期下期取組)】

上期には、新飼料工場建設のため、 ホクレンくみあい飼料株式会社と雪印種苗による、 合弁会社を4月に設立しました。

12月に着工を予定しており、 2021年の稼働に向け進めてまいります。

下期は、種苗生産管理システム構築による 生産性改革を進めてまいります。



#### [CSR]

当社グループの持続的成長に向けた取組みについてです。

昨年9月に、企業理念に基づき、事業活動を通じて、 社会とともに 持続的な発展を果たすことを 明確にするため、 雪印メグミルクグループのCSR方針を改訂しました。

社会課題の解決に向けて 5つのCSR重要課題(マテリアリティ)を特定しました。

# 持続的成長に向けた取組

#### 2019年8月

# 重要課題ごとのKPIを決定 今後進捗状況を公開





- (例) CO2排出量を2030年度までに2013年度比30%削減
  - 廃棄物排出量を2030年度までに2013年度比30%削減
  - 食育活動により、2019~2026年度で年間平均4.5万人の参加者数を目指す。

※詳細はHPまたは「雪印メグミルクグループ2019」をご覧ください。

SDGsの17のゴールのうち 13の目標に向けて取組みます

















(監督中メグミルク Copyright @ Megmilk Snow Brand Co, Ltd. All Rights Reserved

#### [CSR]

8月には、重要課題ごとのKPIを決定するとともに、 その進捗を開示していくこととしました。

KPIとしては、CO2排出量を30%削減すること、 などを決定しました。

そして、SDGsとして設定された17のゴールのうち、 13の目標に、取組んでまいります。

<b>트</b> 期ビジ:	ョン2026		
ロードマッ	263		
	ク 第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ
	2017-2019 年度	2020-2022 年度	2023-2026 年度
位置付け	Transformation (変革)の始動	Transformation (変革)の加速	Renewal(進化)へ
	グループ経営の 始動・推進	グループ経営の 展開強化	グループ経営の 加速・進化
役割	収益基盤の複数化および キャッシュ・フローの 最大化	収益基盤の確立	4事業分野による 収益の安定的創出
	生産体制進化への着手	生産体制進化の本格始動	調達・生産体制の確立

### 【次期中期経営計画2022】

次期中期経営計画は、 2020年4月から2023年3月までの3年間となります。

2017年5月に発表した「長期ビジョン2026」において、「Transformation(変革)の加速」ならびに「グループ経営の展開強化」として位置づけた第2ステージとなります。

皆様には来年5月の決算説明会において発表させていただきます。



【最後に】